

別紙 1 - 1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 山田 徹

### 論 文 題 目

Reliability and acceptability of six station multiple mini-interviews:  
past-behavioural versus situational questions in postgraduate medical admission

(6ステーションのマルチプルミニインタビューの信頼性と受容性：  
卒後医師採用試験における、過去の行動質問対状況質問)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主査 委員 萩井 達志

名古屋大学教授

委員 木村 宏

名古屋大学教授

委員 清井 仁

名古屋大学教授

指導教授 萩谷 祐文

別紙 1 - 2

## 論文審査の結果の要旨

今回、6ステーションの Multiple mini-interview (MMI) による後期研修医採用面接試験を行い、その信頼性と受容性の検討を行った。応募者 40 名と面接官 24 名を対象に、過去の実際の行動を問う Past-Behavioural Question (PBQ) と、仮定の状況での行動を問う Situational Question (SQ) による MMI を行い、質問形式ごとの信頼性と受容性を一般化可能性研究と決定研究を用いて検討した。その結果、6ステーションの MMI は高い信頼性と受容性を示し、4ステーションでも十分な信頼性が示された。信頼性は PBQ より SQ が高く、受容性は PBQ の方が高い傾向が示された。また、受容性を最大にするためには両方の質問を用いるべきであることが示唆された。本研究に対し、以下の点を議論した。

- 一般的に試験の結果は真の値とその誤差に分けられるが、一般化可能性理論はその誤差を各要因に分けて分散成分を推定して信頼性を評価する方法であり、分散成分を推定する一般化可能性研究と、その分散成分から一般化可能性係数（信頼性）を推定する決定研究に分けられる。本研究では分散成分を①応募者の能力、②評価項目（PBQ と SQ）、③ループリック、④その他の誤差の 4つとした。一般化可能性係数は 0.8 を超えると非常に高い信頼性があるとされている。一般的には MMI で信頼性を保つためには 10 ステーション前後が必要とされていたが、今回 PBQ のみ、または SQ のみであればステーション数を 4 まで減らしても十分な信頼性が確保されることが示された。
3. 妥当性は内容的妥当性・基準関連妥当性・構成概念妥当性の 3 つに分類される。内容的妥当性とは試験の内容に関する妥当性であり、表面的妥当性はこれに含まれる。表面的妥当性とはテストが実際に何を測定しているかではなく、何を測定しているように見えるかを表す概念である。この判断は必ずしも専門家でなくともよく、被験者の側から見て妥当であるかどうかが重要である。これが高いと被験者はそれだけ真剣に試験に取り組むことが予想される。本研究における表面的妥当性は、応募者や面接官が MMI を面接試験として適切な方法だと感じているかを評価することになる。

予測妥当性は基準関連妥当性の一つであり、試験結果が将来どれくらい想定した結果を示せるかということである。本研究の予測妥当性とは、MMI で入職した後期研修医が入職後に評価（例えば 360 度評価など）を受けた場合に、MMI の点数と入職後の評価にどれくらい相関が見られるかということになる。本研究では面接時の評価しか行っていないため、予測妥当性の検討はできない。予測妥当性は入り口評価の効果を測定するためにも重要なポイントであるため、今後入職後の評価を行い、MMI との相関を検討することが重要である。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号	氏 名	山田 徹
試験担当者	主査 若井 達志 副査1 木村 宏 副査2 清水 仁 指導教授 萩谷 雅文		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 本研究の一般化可能性理論を用いた信頼性の求め方について
2. 本研究で検討された表面的妥当性とは何を指すか
3. 本研究の今後の課題である予測妥当性とは何を指すか

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、総合診療医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。